

# 地域産業の担い手育成プロジェクト事業(水産分野)

平成 20～22 年度 茨城県

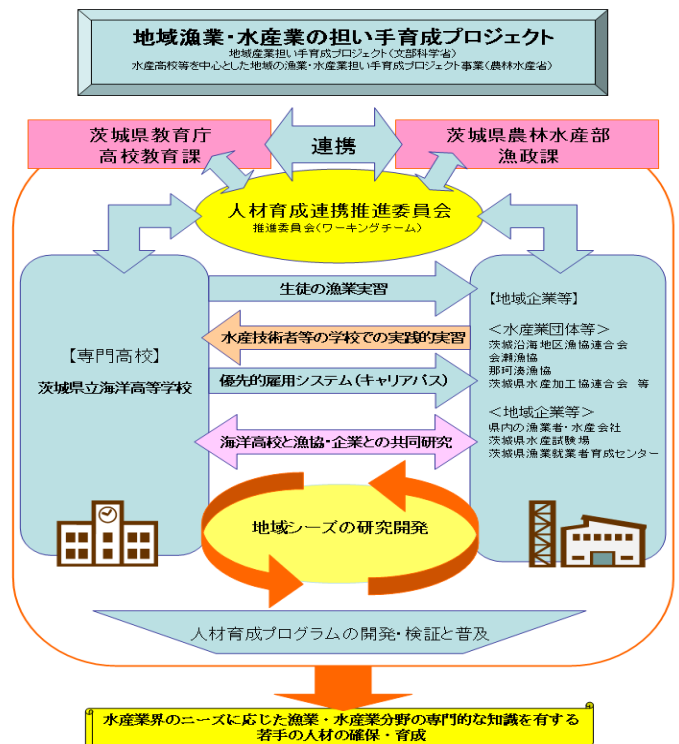
事業実施機関・・・茨城県教育委員会，茨城県会瀬漁業協同組合  
連携省庁・・・農林水産省水産庁  
取組校・・・茨城県立海洋高等学校

## 事業目標

漁業・水産就業者の高齢化と減少が進展しており，今後の漁業・水産生産を維持・発展させるためには，次世代の生産を担う人材の育成が急務である。このため，茨城県立海洋高等学校と地域産業が連携して，地域漁業・水産業の担い手の育成を図り，地域水産業の活性化と発展を促進させる。

## 事業の概要

茨城県立海洋高等学校と地域産業，行政が連携し，生徒，教員が漁業・水産業の実践的な実習や研究等を行い，漁業・水産分野の専門的な知識を有する若手の人材を確保・育成する。また，地域漁業・水産業のニーズ調査を行い，必要とされる資格や求められる知識を抽出し，それに合わせた指導方法等を検討・研究する。



## 事業の内容と成果

### 《生徒の企業実習》

学校設定科目「水産業実技演習」(2単位)の実施

#### ○内容

- ① 漁業実習 (海洋技術科・海洋工学科 2年生)  
定置網漁業，刺し網漁業，旋網漁業，  
網の修繕作業，市場作業
- ② 水産会社等 (海洋食品科・海洋情報科 2年生)  
水産加工会社における魚介類の製造や加工，  
水産販売会社における鮮魚や加工品の販売



## ○成果

### ① 漁業実習（海洋技術科，海洋工学科）

実習を行う前は，漁業に対する就業意欲があいまいな生徒が多かったが，実習後は生徒の漁業に対する理解が深まったため，漁業者に「ないりたい」，「なりたくない」がはっきり分かれた。

### ② 食品会社等（海洋食品科，海洋情報科）

生徒の仕事に対する意識が変化し，特に地域の水産業についての理解が深まった。実習を通じて，「作業実践力」や「努力する力」が向上した。



## 《技術者による学校での実践指導》

学校設定科目「水産業概論」（1単位）の実施

### ○内容

漁業者・水産技術者から直接，各種漁業の漁具・漁法，作業工程，資源管理，栽培漁業などについて講話や技術指導を受けた。

### ○成果

生徒は授業内容や授業で用いられた実物の魚や貝，実際に使っている漁具等に興味を示し，「普通の授業では聞けないことを聞いて良かった」，「漁業の技術・技能を高めるのに役に立った」等の感想を持った。



## 《教員の高度技術取得》

### ○内容

教員が企業等で高度熟練者から漁業，水産加工・流通・販売，無線技術等の専門的な指導を受けた。

### ○成果

教員が，漁業・水産業の生産現場の知識を深め，技術を向上させ，学校での授業や実習指導が充実した。

## 《水産高校等と漁協・漁業会社等との共同研究》

### ○内容

漁業生産現場で求められる高鮮度管理による出荷システムについて漁業者の協力を得ながら研究した。

### ○成果

生シラスを凍結保存する技術について研究を重ね，付加価値を向上させた製品の作成に寄与した。

## 《水産高校等から漁協・漁業会社等への優先的雇用システム（キャリアパス）の研究・検討》

### ○内容

海洋高校の卒業生，特に漁家子弟以外の生徒が漁業・水産会社等への就業を促進するため，優先的雇用システム（キャリアパス）を整備した。

### ○成果

沿岸漁業従事者へニーズ調査を実施した結果，海洋高校に対して「漁業に必要な資格取得」や「漁業に必要な技術や知識など教育の充実」について期待していることがわかった。

海洋高校の求人状況については，経済不況の影響を受け，全体の件数は減少したが，生徒の実習を受け入れた水産会社からの求人が増加したため，水産業関連企業の求人件数は増加した。

本年度，本県の旋網漁業に就業するものが6名，定置網漁業に就業するものが1名と飛躍的に増加した。